２０１７年（平成２９年）８月４日

相鉄グループ創立１００周年記念

都心直通用 新型車両「２００００系」が到着

本州最西端の山口県から神奈川県まで輸送

相模鉄道株式会社

相鉄グループの相模鉄道㈱（本社・横浜市西区、社長・滝澤秀之）では、グループ創立１００周年を迎える２０１７年（平成２９年）１２月に導入する都心直通用新型車両「２００００系」の第１編成が、２０１７年（平成２９年）８月４日に車両センター（相鉄線 かしわ台駅構内）に到着しました。

この車両は、２０２２年度（平成３４年度）下期に開業を予定している相鉄・東急直通線の車両として使用するものです。この車両が製造された㈱日立製作所 笠戸事業所（山口県下松市）から機関車にけん引され、相模鉄道創業の路線である「ＪＲ相模線」を経由して厚木操車場（神奈川県海老名市）に到着。同操車場からは、事業用車両「モヤ７００系」で車両センターに輸送されました。本州最西端の山口県から神奈川県まで約９５０ｋｍを移動してきたことになります。

なお、製造の様子は、デザインブランドアッププロジェクトの２００００系公式ウェブサイトでご覧いただけます。（この度の輸送の様子についても公開を予定）。

今後は、車両の整備や各種試験、乗務員の訓練等を行い１２月の営業運転開始（予定）に向けて準備を進めてまいります。

概要は、別紙のとおりです。

１２月にデビューを予定している「２００００系」

（別　　紙）

都心直通用 新型車両「２００００系」の輸送概要

相模鉄道 広報担当の「そうにゃん」が全区間乗車

電気機関車でけん引（山口県）

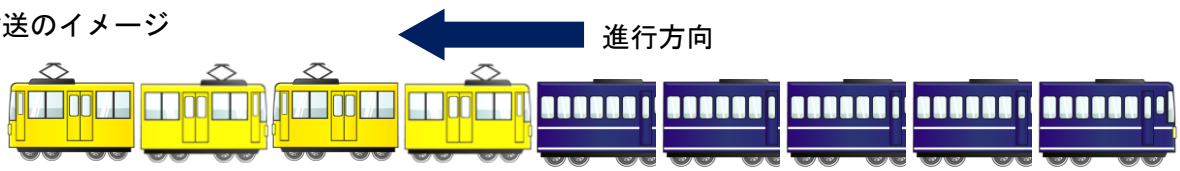
瀬戸内海を背景に（山口県）

電気機関車にけん引され山道を登る（広島県）

モヤ７００系でけん引（相鉄線内）

無事に車両センターに到着

■輸送のイメージ



モヤ７００系（４両）　　２００００系（５両）

相鉄線の駅には１０両以上の編成が停車できないことから８月２日・４日の２回に分けて輸送されました。

「２００００系」の輸送ルート（イメージ）

相鉄線内の「２００００系」輸送ルート（イメージ）

都心直通用 新型車両「２００００系」の概要

１．営 業 運 転 開 始

２０１７年（平成２９年）１２月（予定）

２．導 入 車 両 数

１編成（１０両）　（７０００系車両の代替）

※２０２２年度（平成３４年度）下期（予定）の東急直通線の開業時までに順次導入予定。
※相鉄・ＪＲ直通線用の車両は、現在検討を進めています。

３．開発コンセプト

安全×安心×エレガント　～目先のトレンドに左右されない「醸成するデザイン」～

４．主　な　特　徴　（◎ 相鉄線初）

①快適性の向上

◎「ユニバーサルデザインシート」を一部の優先席に導入
立ち座りを容易にするため座席の高さを上げ、座り心地を損ねない範囲で座面を小さくしたシート。座席下部に大型の荷物が収納でき、荷棚が使いにくいお客さまでも安全にご利用いただけます。

◎ベビーカー、車椅子用のフリースペースを全車両に設置

◎「ナノイー」＊搭載の空気清浄機を導入

◎「個別ドアスイッチ」を全てのドアに導入
空調効果を高めるために始発駅等でお客さまによりドアの開閉ができます。

◎座席端部の仕切り板の大型化
座席端部の仕切り板に強化ガラスを採用し、荷棚まで届く形状にすることでドア付近にお立ちのお客さまの荷物等による着席しているお客さまへの干渉を緩和します。

・日差しを遮る「ブラインド」を復活
・相鉄線の特徴でもある「車内の鏡」を復活
・時間帯で変化する調色調光式のＬＥＤ照明を採用
・２０１６年度ＧＯＯＤ ＤＥＳＩＧＮ賞を受賞した「つり革」を採用
・ロングシート座席は座り心地を改良し、ランダムパターンを施した汚れが目立たない生地を採用

②車内での情報提供の強化

◎ドア上や通路の天井に大画面案内表示器（２１．５インチ）を設置

◎見やすさ向上のため通路の天井に広告画面を設置

・全車両でＷｉ-Ｆｉを提供　※Ｗｉ－Ｆｉをご利用になるには、通信事業者との契約が必要です。

③環境への配慮

◎新型素子（ＳｉＣ素子）を採用したＶＶＶＦインバータ制御装置と高効率電動機の併用や、室内灯、各種灯火類のＬＥＤ化により消費電力を低減

・密閉型主電動機や防音車輪の採用により騒音を低減

④安全・安心の更なる向上

◎急曲線等での安全性を向上させた専業メーカー製台車

◎車両情報を司る装置にイーサネット方式を採用し、安全性やメンテナンス性を向上

・車内の非常通報装置を増設

５．車両製造会社

㈱日立製作所

６．デザイン設計

㈱ＰＲＯＤＵＣＴ ＤＥＳＩＧＮ ＣＥＮＴＥＲ

＊「ナノイー」は、パナソニック株式会社の商標登録です。

■「デザインブランドアッププロジェクト」公式ウェブサイト

(http://www.sotetsu.co.jp/design-pj/20000/)

※電車の製造の様子等を動画でご覧いただけます。

（参　　考）

相模鉄道の主な歴史について

- １９１７年（大正６年）１２月、相模川の砂利輸送を目的として、神中軌道㈱・相模鉄道㈱がそれぞれ創立。
- １９１９年（大正８年）に神中軌道㈱が神中鉄道㈱に商号変更。
- 神中鉄道㈱は１９２６年（大正１５年）に厚木～二俣川間を開業し、１９３３年（昭和８年）には横浜駅に乗り入れ。
- 相模鉄道㈱は１９２１年（大正１０年）に茅ヶ崎～寒川間を開業し、１９３１年（昭和６年）には茅ヶ崎～橋本間が全線開通。
- １９４３年（昭和１８年）、相模鉄道㈱が神中鉄道㈱を吸収合併。
- 国策により１９４４年（昭和１９年）、相模鉄道の路線（現ＪＲ相模線）を国（運輸通信省）に買収され、旧神中鉄道の路線だけが残される。
- １９４５年（昭和２０年）６月、鉄道業経営を東急電鉄に委託。相模鉄道は砂利業のみで存続。
- １９４７年（昭和２２年）、鉄道業の委託経営を解除。
- １９４９年（昭和２４年）に二俣川変電所を新設、電力自給体制が整う。電化により蒸気機関車等は姿を消す。
- １９５５年（昭和３０年）従来に比べ軽量な新型車両５０００系を導入し、中古車両中心の運用から脱却。
- １９６３年（昭和３８年）保有車両が１００両突破。
- １９６７年（昭和４２年）かしわ台に車両基地完成。
- １９７１年（昭和４６年）保有客車が２００両突破。
- １９７１年（昭和４６年）初の冷房車を導入。
- １９７４年（昭和４９年）戦後、２０年以上にわたり推進してきた複線化が完了。
- １９７６年（昭和５１年）いずみ野線（第一期　二俣川～いずみ野駅間６．０ｋｍ）開業。
- １９８０年（昭和５５年）保有客車が３００両突破。
- １９８７年（昭和６２年）現業部門の制服を変更。
- １９９０年（平成２年）いずみ野線（第二期　いずみ野～いずみ中央駅間２．２ｋｍ）開業。
- １９９０年（平成２年）大手民鉄の仲間入り。
- １９９０年（平成２年）保有稼動客車が４００両突破。
- １９９１年（平成３年）初の自動改札機を導入。
- １９９５年（平成７年）全駅自動改札化が完了。
- １９９９年（平成１１年）いずみ野線（第三期　いずみ中央駅～湘南台駅間３．１ｋｍ）開業。
- ２００７年（平成１９年）グループカラーを導入した新カラーデザインの車両が登場。
- ２０１６年（平成２８年）デザインブランドアッププロジェクトのコンセプトを初めて反映した９０００系リニューアル車両がデビュー。
- ２０１６年（平成２８年）デザインブランドアッププロジェクトのコンセプトを反映し、現業部門の制服を変更。
- ２０１６年（平成２８年）デザインブランドアッププロジェクトのコンセプトを初めて反映して平沼橋駅をリニューアル。